

10月10日『乳幼児期支援連携合同勉強会』への沢山のご参加、誠にありがとうございます。
皆様から頂いたアンケートです。

1「乳幼児期支援合同勉強会」について（当てはまるものに○をつけて下さい）

良かった・・・47名　だいたい良かった・・・3名　未記入・・・1名　未提出・・・17名

2「内容」について（ご感想・ご意見等、ご自由にお書きください。）

- ・とてもわかりやすかった。普段運動療育を提供しているが、細かい部分の再確認ができた。
グループワークで保育園や他事業所の取り組みも聞けて支援に取り入れたいと感じた。
- ・ASDなどの運動が苦手なお子さんのアプローチ方法や、姿勢保持、体幹の弱いおこさん、ボディイメージが取りづらいお子さんへの支援方法など、改めて勉強になりました。『身体を動かすことって楽しい』と感じながら身体感覚や強みを伸ばせて行けたらと思いました。
- ・運動が苦手な子に対してどのように接することが大切なのか、またこどもたちの感覚・身体を育てるにはどんな運動が有効なのかを学ぶことができた。
- ・感覚の育ち等改めて再確認出来て良かったです。他の事業所や保育園での取り組みや工夫されている所を具体的にお聞きできて勉強になりました。
- ・講義内容が、誰にでも分かりやすくまとまったもので、
何が言いたいか、何を伝えたいかが明確でとても良かったです。資料活用します！
何にも興味を示さない子についてどうすれば…というような支援での悩みや迷いはきっと他にもあるはず…と感じました。
- ・資料が写真付きでとてもわかりやすかった。実際に取り組んでいる活動の様子をグループワークを通じて話が聞けてよかった。グループワーク内での話が具体的で、お勧めのアイテムを紹介してくれたり、絵を描いて伝えて意見交換ができ参加して良かったです。
- ・積み木を積み上げるように発達する。こども自らの主体的なチャレンジで積み重なっていく等、具体的に話を聞けて良かった。
- ・講義の後に、グループワーク、全体発表という流れが、とても良かったと思います。
- ・各グループごとの全体発表の時間をもう少し長くとして、皆さんの支援内容をもっと具体的にお話していただいたり、グループワークを、グループのメンバーを替えて2回やったりすれば、皆さんの貴重な具体的な支援内容をもっと知ることができ、それぞれの現場に活かしていけるのではと思いました。
- ・乳幼児期の支援が土台となっていて、それがしっかりしていれば次の学童期以降に上手く繋がっていくのだなと思いました。

- ・今回初めての参加でしたが、とても勉強になりました。講義に関しては、感覚について理解していたつもりでも、実践になると全く活かすことができていなかったことに気づきました。また、この姿勢だとこの感覚が育つ等具体例で挙げて頂き、とても分かりやすかったです。母子と関わる際に、改めて意識したいと思いました。

グループワークも各所で工夫している点、悩んでいる点、生の声を聞くことができ参考になりました。ありがとうございました。

- ・遊びが子どもの発達のどこに繋がっているのか、それを保育士が意識することで効果がアップしたり、見通しが持てたりすることがよく分かりました。
- ・一人一人の発達を見極めて、簡単すぎず、難しすぎず、ちょっと頑張ればできそうな楽しい遊びを提供していかなければならないと思いました。
- ・遊びながら、またお手伝いをしながら体作りができることは、保護者にも園から具体的に伝えてほしいと思います。
- ・子どもたちとの遊びが、どのような発達につながっているのか、何となくではなく明確になって面白かったです。また、日々、保育園や通所施設の先生方が子供たちのために真剣に考え、ご尽力をいただいていることを知ることができ、改めて有難く思いました。
主体的で豊かな人生を歩むこと、選択肢の多い人生にしてあげることと、あらためて言葉で言われると、その通りだと思いました。
- ・新しい発見が多く、自分と違う資格の方からお話を聞く事は毎回勉強になります。いろいろな角度から見る事で、日々悩んだり困っている事のヒントになったり、実際にやってみようと思えることがたくさんありました。今回の資料は全職員に配布し、遊びを大切にしたり、身体づくりのための運動を話し合い療育に活かせるようにしていきたいと思いました。
- ・改めて講演を聞く中で、左右が分からない子は前庭感覚が育っていないんだ等、勉強になることが多かった。
 - ・子どもの発達に応じた支援ポイントや遊びを提供する上での発達支援について改めて勉強させていただきました。ライフステージに沿った支援の表を拝見した際、乳幼児期が最も多い支援が行われていると知り、乳幼児期は成長していく中でとても大切な時期であると実感しました。また、運動遊びを通して育っていく力は発達のベースとなっていくため、個々の発達段階をみて合ったものを用意しながら支援をしていけるよう心掛けて保育をしたいと思いました。
- ・日々の生活の中で発達を促すために大切だと無意識的に取り入れていたものが、作業療法の観点から見てどんな感覚に刺激を与える動きなのかと、専門的な根拠があると理解しながら見守るとどこまで声をかけずどこからフォローすればいいかなど、かわり方も変化していく。そういったところを意識するだけで、子どもの力をより伸ばす支援に繋がると思いました。
- ・「遊びの大切さ」については今までに受けてきた研修の中でもあり、自分自身でも感じていたが、なぜそれが大切なのか？ どういったことがどういった力を伸ばすのか？ という視点で改めて学ぶことができた時間になったと感じました。また、「感覚は脳の栄養素」とお話にもあったように

感覚を育てていく遊びが大切なことであると改めて学ぶことができたように思います、グループディスカッションでは様々な事業所の 方の実際に行なっていることについて話し合い、色々な活動や道具など楽しめるよう な工夫があり、なかなかそういったお話をしたり聞いたりする機会が無いので参考に させていただきたいなと感じ、とても勉強になりました。

- 遊びを通して主体的で豊かな人生を歩む力の基礎を養い、楽しい！やってみよう！と 思えるような活動を提供していくことの大切さを学びました。「感覚は脳の栄養素」ということで、まずは感覚を鍛えられるような運動を提供していきたいです。普段提 供している遊びや運動がこういう裏付けがあったのかと学ぶと共に、そのような裏付 けを理解した上で、療育を提供していきたいなと感じました。
- 集団生活の場である保育園で、普段から取り組んでいる運動遊びやリトミックが感覚統合のどの部分に当てはまるのか、具体的に理解できたのでわかりやすかったです。
- 保育の中でやっていたことは間違っていなかったと自信を持つことができました。遊び方の例も具体的に紹介していただき、とてもわかりやすく『年長さんはこうしたらいいかな？』と自分なりに考えられたのでとてもよかったです。乳幼児期の基礎がとても大切なことで、学童期へと続いていくと、改めて気づき、感覚特性に沿った支援をしていきたいと思いました。
- 「〇歳だから〇〇ができる」と画一的に見ないということは未満児の保育でも大切だと感じた。個々の発達を促す保育をしていきたい。
遊びを通しての発達支援は、学童期、思春期に繋げるためにも、乳幼児もおおきなポイントになっていることも再確認することができた。
- 子どもたちの興味を増やしていくことで、将来の選択肢が増え自己決定できることに繋がると知ったので、日頃から子どもたちがどんなことに興味を示すのか把握し、遊びに取り入れていきたい。
- 感覚について、想像しやすい感覚は知っていたが、「前庭感覚」や「固有感覚」は詳しく理解できていなかったなので、今回の研修で少しイメージすることができた。もっと詳しく知りたいと思った。
- グループワークで、様々な運動遊びや悩みを共有できて学びになった。
- 発達の支援として、子どもが自分で選択し、自己完結できるようになるためのプロセスとして、個の特性を理解し、興味の幅を広げていくことの大切さを改めて学ぶこ とができた。 子どもにとっては、遊びが学びであること。遊びを通して成功体験から達成感を味わう。やってみたいという気持ちを大切にすることを、さらに大事にしたいと思った。 感覚は脳の栄養素になるというお話を聞き、さまざまな運動遊びや感覚遊びを通して、発達のベース作りができれば良いと思った。運動が苦手な子に対しての配慮など、 苦手な事背景を読み取り、丁寧に対応したいと思った勉強会だった。
- 療育は難しいものという考えがありましたが、今回の研修を通して保育園で行っている活動は事業所で行っているものと同じものもあることを知ることができ、嬉しく思いました。
保育園でも事業所と併用している子がいるため、子ども自身ができることを取り組んだその子に応じたスモールステップはどのようなものなのか、自ら事業所に足を運びもっと学びたいと感じ

ました。

- 興味の幅を広げて行き、子供に合わせた発達支援を行うなど、仕事に活かせる話や、グループワークで色々な方の話が聞けて参考になりました。
- 大変わかりやすく「感覚は全ての土台になっている」ということを改めて考えさせられました。ZOOMだと固有覚の「目を瞑って人に動かされた手を、逆の手で再現できる」という実験が出来なかったのが残念です。大人も感覚を使っているということに気づくことで、子どもの困りに寄り添うことが出来ると改めて思いました。グループワークでは、保育園さんの話を聞き、保育園は「楽しく過ごす」ことを考えながら遊びを中心に考えられており、事業所は半年ごとの評価もあるので、どうしても目標に対して「出来るようにせねば」になりがちだな、と反省しました。本人が主体的に活動するためには「楽しい」「できた」に繋がるようにしていかなければならない、と改めて感じました。
- 感覚統合や実践で使える具体的な運動や遊びについて知ることができ、勉強になりました。グループワークで事業所や園の実践についても教えて頂くことができて良かったです。
- 学童期・思春期を超えた先を見越して、乳幼児期はゆっくりじっくり基礎を育てることが大切だと改めて感じました。又、年齢を基準に見てしまいがちですが、その子その子に見合った支援をしていきたいと思いました。本日学んだことを遊びや個別療育・運動の中で参考にしていきたいと思います。
- グループワークの中で、他の保育園や事業所でどんなことをやっているのか知ることができて良かったです。日頃、自分たちが取り組んでいる運動療育が、子どもたちの様々な感覚を刺激していることにつながっていることが再確認できて良かったです。
- 感覚は脳の栄養素ということを知り、遊びを通しての発達支援の理解が深まりました。
- こどもの理解と環境設定の大切さが、改めてわかりました。
- 遊びの発達支援で、程よいチャレンジが大事という中で、スキが苦手を上回るとできる事もあり、事前の準備や環境設定がとても大切なんだと改めて感じました。
- 遊びを通して色々な発達を支援すること、感覚刺激の大切さを学んだ。具体的な運動遊びの紹介や、参加者の実践している事を知ることができてよかった。
- 聞きたい、勉強したいと思っていた内容だった。
- 学びたかった感覚刺激について詳しく話していただきました。自分の中では、前庭感覚と固有覚の違いの理解不足を感じているため、更に追究したい課題です。
重ねて、療育支援に当たる方たちが、どのような子ども観を持って関わっているかをお聞きし共感するとともに、取り組み内容からもたくさん学びました。
- グループワークでは、各施設の工夫された運動遊びの取り組みを知り参考になりました。時間があれば取り組みの理由や意図を詳しく聞いてみたかったです。
- 感覚は脳の栄養素／脳の三大栄養素・・・触覚、前庭覚、固有覚
- 育ちのピーク・・・感覚は9歳までがピーク(それ以上育たないわけではない)、脳の臨界期は12

歳／小学校低学年までは運動が有効

- ・発達の支援として、将来の自己決定につなげていけるように選択肢を増やせるようにしていくことの大切さが理解できた。
- ・他の保育園や各事業所で実践している感覚遊びや運動遊びについてグループワークで交流することができて学びになった。
- ・運動は「できる」「できない」が目に見えて分かるため、失敗が本人だけでなく、周囲にも分かってしまう。自己肯定感や自尊感情の低下につながってしまうため、できることを組み込んだスモールステップが必要だと感じた。
- ・「子どもにとっての遊びとは学習する機会」という話を聞いて改めて、遊びの環境を整え工夫しなければいけないと思った。子どもが“遊び”を通して体を動かす面白さ、楽しさを経験することの大切さを学んだ。
- ・運動遊び等、苦手なこどもにはできるようになってほしいという思いから練習をすることがあるが、『苦手意識を高めてしまう』ことになるリスクがあるという事。
- ・全員が同じ動きではなくても苦手なこどもが出来る事も組み込んだスモールステップを大切にしたいと思った。
- ・実践されている運動遊びの紹介が写真で示されてわかりやすかった。
- ・冒頭にお話しをいただいたように『遊びの中でどんな事を育てているのかエビデンスを広げる事』ができた有意義な研修でした。手袋を外していくイメージで沢山触覚体験の経験も作っていきたいです。感覚を通しての学びは、乳幼児期にはとても大きな良い影響を与えてくれるということも改めて学び、具体的な遊びについて知る中で、日々保育で向き合う『その子に合った』『能動的に』取り組める遊びの工夫を大切にしたいと思います。
- ・基本に立ち返って、日頃の支援を確認する事が出来ました。また、他事業所や園での様子や困りごとを伺えたことが、とても勉強になりました。
- ・基本となるものを教えていただいて、とても分かりやすかったですし、日頃の支援に置き換えながら聴講することが出来ました。子供たちにとって、遊びを通してたくさんの事を獲得しているのだという事を、理解できました。そして身近な操作一つにしても、子供の成長に良い事をたくさん教えて頂き、実践していきたいと思いました。視野が広がった感じがします。
- ・理論や専門用語もあったが、各園、日々の行っていると思った。専門性は、日々の活動をどう言語化するかも大切なので、目の前のこどもたちの様子を見ながら、その活動がどういう意味があるかも考えていきたい。
- ・日々の保育の中で感覚遊びという粘土など手で触れるもののイメージでしたが、いろいろな遊びの中で自然と前提感覚固有感覚などの育ちにつながっていたのだと知りました。
- ・今回の研修を受けて、普段保育に取り入れている運動遊びは、体のどの部分が育つのか知らないこともあり、改めて学ぶことができました。また、中間姿勢などを取り入れるための運動遊びで、子ども達が楽しみながらできそうな遊びを学ぶことができたので保育に取り入れていきたいと思いました。グループワークの時間もあったので、他の保育園での活動内容などを聞くことができて良かったです。

- ・「豊かさとは、選択肢を多く持ち、自己決定できること」とあり、その選択肢は日々の保育での経験や興味が関わってくるので様々な遊びを提供していきたいと改めて思った。
- ・実際にこどもが遊んでいる姿の写真等わかりやすく、見やすかった。
- ・グループワークの時間は、現場の先生の声が聞けて一緒に課題解決の話をするのができてとても勉強になった。
- ・グループワークでは、子どもの得意や苦手に合わせて活動内容を変えているという話もあり、取り入れてみたいと思った。

3.明日からやってみようと思ったことをお書きください。

- ・遊びの中で感覚の育ちを今以上に意識して関わりを持って行こうと思いました。
子どもの主体的な遊びを伸ばせるような環境設定や、生活の中から遊びを見つける視点を持つことを大切にしていきたいと思います。
- ・運動遊びの紹介にもあがっていた雑巾がけやマットを使ったトンネルなど、活動に取り入れたいと思います。戸外では、公園などの固定遊具で身体を動かすことはもちろん、道中の草や虫に触れ、感覚、感触など自然から取り入れていきたいと思います。
- ・中間位を意識したサーキットや活動に上手く乗れない子の「どうしたら楽しく参加できるか」の部分をスタッフ全体で考え共有して小さな「できた」を積み重ねられるようにしたい。
- ・間違っていなかったなと裏付けをいただくことができました。
現場の職員たちにもタイムリーに伝え、運動遊びの例から（裏付けありきで）、活動の組立ての中に、改めて積極的に取り入れていきます。
何故できないんだろうではなく、どうしたらできるかな？の視点を欠くことなく原因究明と継続できる工夫に知恵をしぼりたいと思います。
- ・小さい『できた！』でも褒めてあげる事を一人一人にしていく。
- ・気になる子の特定のおもちゃで遊ぶ子に対して、少しずつ活動に参加できるよう興味関心を把握し引き出したい。
- ・『できる』を味わう！・・・何かをさせようというよりも『できた』という成功体験をこどもとともに感じる。保育者側の姿勢として大切にしたい。室内環境や手作りおもちゃの工夫。感覚遊びの更なる充実を築いていきたい。

- 職場内で研修内容を共有したい。
- 様々な経験体験をたくさん盛り込み、こどもたちの興味の幅を広げていくことで選択肢を広げていき、将来の自己決定に繋がっていけるよう意識して支援していこうと思います。
- 普段の業務の中で保護者に関わる際、子どもの問題行動にばかり焦点が当たることが多いため、今回の勉強会で学んだ「なんでできないの」ではなく「どうしたらできるかな」の視点を大切に関わっていきたいと思いました。保護者から話を聞く際も、その行動だけではなく、子どもに関する情報収集も丁寧に行いたいです。
皆さんしきりに口にしていた「楽しく」という気持ちが一番大切だと思うので、子ども、保護者共に少しでも楽しくなるような関りができたらと思います。
- 保育士は遊びを生み出す天才だと思うので、さらに遊びが子どもの何を育てているのか一つ一つねらいを持って実践すること
- 運動の苦手な子どもにとって、「失敗の連続」の経験にならないよう、できることを組み込んだスモールステップで検討していくこと
- 子どもが「やってみたい！」と思える一人一人に合った遊びの環境を作ること
- 園で行っている遊びのねらい等、具体的に保護者に伝えること

以上のことを現場の先生方にお伝えしたいと思います。

- 感覚を取り入れた運動とチャレンジできるような内容を考えて、療育に取り入れていきたい。
- 日ごろ巧技台でサーキットを行うので、見立て遊びを取り入れながらサーキットに対してやる気や楽しそうというわくわく感や気持ちを引き出したい。
グループワークで出た、戸外などで遊べない子に集団遊びやほかの子を大げさに褒めるをやっていきたい。
- 子ども達が自ら興味を持ち、遊び込めるような環境設定と玩具の提供を少しずつ取り入れていきながら、楽しく遊ぶための工夫を考えていきたいと思います。
運動遊びを行う際も、子どもの興味や発達段階に合わせたものを用意し、成功体験を味わいながら意欲ややる気につなげられるように支援していきたいと思います。
- 姿勢を低くする動きやトンネルをくぐろうとする体勢が身辺自立につながると聞いたのでそういった遊びを積極的に設定していきたい ・0 歳児から体幹育てにつながるバランス遊び、ふれあい遊び ・感触遊びの多くの経験、まずは好き嫌い、苦手、平気などの個々の反応からどうい う段階なのかを知りそこから楽しみなものと組み合わせで少しずつ体験できる設定 づくり
- 運動遊びにおいて、できない事にフォーカスされてしまうようにするのはなく、「できる」を積み重ねていけるようにしていきたいと感じました。「ちょっと難しい」というラインを設定すること、また難しいことも本人の意思を尊重してやってみる、という経験も大切ということでそ

の子に合わせてハードルを下げ るのではなく、難しいことも挑戦してみようという機会も作れたらと感じます。 ・中間位の姿勢が大切ということで、そういった姿勢を遊びの中で自然と取り入れられるような工夫をしていきたいと感じました。運動遊びの例として挙げて下さった活 動を参考にさせていただき、実践していきたいなと感じました。

- 「触覚」「園庭感覚」「固有感覚」を組みこんだ療育の提供。 できることを組み込んだスモールステップの積み重ね。
- 背中を意識したところからボディイメージを豊かにして、人との距離間(在園児も含め、わからない子が多いと感じています)をこどもが主体的に楽しく学べるように活動を工夫していきたいと思います。
- エジソン箸(補助箸)を使用している子のスプーンの3点持ちが、どのくらいできるのか把握していきたいと思います。
いろいろなトンネル遊びや、背中や後ろを意識した遊びを取り入れていきたいと思います。
また、魚釣りは今まで行っており、中間位姿勢の楽しい遊びや運動をもっと取り入れていこうと思いました。
- ぶら下がる遊びや重い物を運ぶ、または転がるなど運動遊びをごっこ遊びの中に取り入れていきたいと思った。
- サーキットあそびのバリエーションも増やしていきたいと思った。
- 活動の事前準備や細かな流れをしっかりと考えておくこと。
- トラック、工事現場、新幹線など子どもたちが好きなものに見立てた運動遊び。
- 様々な姿勢でのバランスボール遊び。
- 大きな袋を背負って運ぶサンタごっこ。
- 紹介された運動遊びや、グループワークで聞いた遊びを参考に、保育に取り入れていきたい。未満児のかかわりとして、ふれあい遊びや、運動の基礎となる遊びを、子 どもの姿をしっかりと観察し、楽しんで取り組めるようにしたい。勉強会で学んだことを、園全体で共有し、年齢やこの姿に合った運動遊びを考えていき、子ども達が自分でやってみたい、挑戦したい！と思える活動を考えたい。
- 運動遊びの紹介の中で中間位の姿勢の大切さを知りました。
靴箱からしゃがんで靴を出すことを嫌がる子がいることに気づかされました、なかなか保育の活動等で中間位の運動遊びについて考えたことがなかったため、意識して遊びの中で取り入れていきたいと思いました。
- 出来るが当たり前ではなく一人一人に合った支援をして行きたいと思いました。
- 保育園さんが「普段やっている遊びが、こんな感覚に関係しているということを初めて知った」とおっしゃっていて、保育士さんでも知らないのであれば利用者さんの保護者も知らないのかもしれない、と気づきました。いつもやっている運動について感覚とどう繋がるのか？という説明を

保護者に広めていきたいと思いました。

- 子どもの日常の姿や遊びや運動の姿を、感覚統合の視点から見つめ直してみたいと思います。紹介して頂いた運動遊びも取り入れていきたいです。
- 1人ひとりの「ちょっと頑張ればできること」を見つけていきたいです。自由遊びの中でも「トンネル」等の運動遊びをどんどん取り入れていけたら…と思います。
- 運動に関して苦手意識を持っている子どもたちも多い中、少しでも楽しんで、「やってみよう」と思える言葉がけや、「できたね！」と一緒に喜び合うことを積み重ねていきたいと思いました。
- 様々な運動阿蘇を教えていただいたので年齢に合わせて取り入れていきたいと思います。
- 指先を使った遊び(洗濯ばさみ)
- リズム遊び、音楽遊び(ストップ&ゴー等)
- 園を訪問して保育実践を見たり、研究レポートの作成や、研修・演習に携わったりしますので、本日学んだことを、「即」役立てられて有難いです。
- 程よいチャレンジの実践／五感＋前庭覚と固有覚へのアプローチを意識した保育／子どもの能動的な働きかけを重視。
- 一時預かりを担当しているため、なかなか運動遊びを取り入れることが難しいと感じていたが、床を転がる遊びやトンネルを使った遊びは取り入れられると思ったのでやってみたい。また、グループワークで、他の園で取り入れている「ハンモック遊び」も体を使って遊べるので良いと思った。
- 家で運動遊びができないと相談してくる保護者にはお手伝いも運動遊びになるということを伝えたい。
- 子どもの観察。苦手さや強みなど育てたいところ（ねらい）を明確にする。
- 子どもの様子から運動遊びを組み立てていく。（感覚統合遊び）
- 現在の環境で、取り組めることは何かを考え、実践していく。また、取り組んでいる運動遊びがどのような意図があるのかという部分をきちんと説明できるようにしていく。
- お手伝いも運動遊びの一つであることから、年齢にかかわらず、できる事をお手伝い(役割として)やってもらう。
- 中間位姿勢を意識した遊びを考える。
- 中間位の姿勢の遊びは、現在受け持っている1歳児にはどんな形でできるだろうと思いながらお話を伺った。高月齢の子は、トラックに見立てた膝歩きは大喜びしそうだと感じた。
- 体を育てる事は、お手伝いの中からも育てられる事を知り、お手伝いの好きなこどもたちに保

育者から頼ってみて、たくさん褒めたり、それを保護者に伝えたいと思いました。

- 子供たちが楽しいと思って取り組めることを、大人が考える姿勢と工夫をもっとしっかりやっていこうと思いました。
- 子供たちの好きなキャラクターを活用しながら、箱押しなどできたらいいなと思いました。ボール投げで玉入れ、トンネルなど、段ボール一つでも様々な遊び方がある事を知り、室内遊びの幅が広がりました。身近なもので色々活用できそうだなと思いました。
- ストップ＆ゴーを音楽に合わせてやってみる。／中間位の姿勢ができる遊び
- 力を調整するのが苦手な子も多いので『力いっぱい取り組める遊び』を工夫して行ってみたい。
- 研修資料で頂いた遊びをやってみたいです。
- 遊びの中で、買い物袋などの重い物を持つことや乗り物を乗る時に、障害物を置いて避けながら移動できるような遊びを取り入れていきたいと思いました。子ども一人ひとりの苦手なところを見つけて、できることを取り入れながらの運動遊びをする時間を作り、スモールステップでできることを増やしていけるようにしていきたいと思いました。
- 体の使い方を意識して運動遊びをする。意図的に働きかけていく。
子どもの好きや苦手を探り遊びに生かしていく。
お手伝いの活動を取り入れていく。
- 体の使い方を意識して運動遊びをする。意図的に働きかけていく。
子どもの好きや苦手を探り遊びに生かしていく。
お手伝いの活動を取り入れていく。

4 今後、こども部会で取り上げてほしい事、学びたい事

- 保護者との関わり
- 保育士さんから上がった、何にも興味を示さない…保育士にベッタリ…について
ケースバイケースだとは思いますが、「基本の考え方」を学べる機会があればいいのかな？
と感じました。私も含め、皆さん日々悩まれていることと思うが、「入り口の考え方」が変われば
見え方が変わるはずだなあ…と考えるので、そんなところを学べると嬉しいかも！です。
- 乳幼児期に必要な運動遊び、感覚遊びについてグループワークのメンバーが0，1，2歳の担当を
している方が多かったので、話が共有できるところがたくさんあり良かったです。
- 運動遊びを個々の主体性を大切にしている中でどのように取り組んでいるか(3歳児以上)も知り
たいです。集団と個のバランスについても。
- インクルーシブ教育システムについて

- 上手なコミュニケーションの取り方
- 発達障害の児童の強みをどのように集団の中で生かしていけるのか
- 子どもの人権を守る支援について
- 子どもの主体性を大切にしたい集団の在り方について
- 多職種間での連携について
- 子ども理解について
- 室内や戸外の環境構成。遊びになかなか取り組めない子やふらふらがちな子も興味関心を持てるような環境を、ほかの園ではどう取り組んでいるのか知りたい。（コーナー保育にしているのか等）
- 異年齢で過ごす環境の中でそれぞれの月齢の子どもたちの遊びを保障するための 環境設定の工夫の仕方
- インクルーシブな取り組み方
- 保護者支援について（信頼関係の築き方等）
- 子どもとの愛着形成や依存について
- 集団（小集団）の作り方・運営の仕方について
- 社会性について
- インクルーシブ保育を展開していく時の集団の作り方と個の支援のバランスについて
- 気持ちの切り替えがうまく出来ず、他児とのトラブルや物を投げる、暴言があるという子への支援方法や対応の仕方について学びたい。
- 個別になってしまうが、支援の必要な子の対応について話を聞いてみたい。
- どんな遊びが、どんな機能の発達、感覚、につながるのかということ。
- 日頃の保育の悩み共有、相談の場。
- 子どもの中で流行している遊び、お勧めの玩具や、発達をベースに関連した遊びを 取り上げてほしい。
- 集団の作り方の中で、周りの子に対して気になることが多く、口出しをしてしまう 子に対しての対応の仕方、どのような対応の方法があるか学びたい。

- ・自ら動けるクラスづくりについて
- ・保育ドキュメンテーションについて
- ・保育園さんと合同であれば、発達グレーな子を事業所へどんどん行かせるのではなく、保育園さんでまず何が出来るのか？とか、保護者への伝え方とか、事業所と保育園のメリットとデメリットについて、専門家の意見を聞く機会が欲しいです。
- ・発達のベース（ピラミッド）のそれぞれの時期に合わせた遊び
- ・今回のワークでも少し話題に上がったのですが、それぞれの感覚を刺激するための具体的な遊び、実践の紹介をし合う時間があるとありがたいです。 情報交換ができる場があると嬉しいです。
- ・ユニバーサルデザインについて
- ・こどもの主体性を伸ばす保育について
- ・感覚統合についてもっと知りたい・学び保育に活かしたい。・体の使い方について（もう1回！）
- ・保護者、発達支援センター、保育現場、行政等の連携のあり方を共に話し合い、深められると有難いです。
- ・ユニバーサルデザインとインクルーシブの概念に違いはあるのか。
- ・保護者との子どもの姿の共有の仕方、関わり方について学びたい。
- ・乳幼児期の発達と食事について(食育について)
- ・子どもたち同士で話し合う際の保育者の配慮と工夫について(対話的な学びをよりよい形でサポートするにはどんな事ができるか伺いたいです)
- ・参考文献ぜひ拝見したいと思いました。
- ・他害のある児との関りや対応
- ・異年齢（発達年齢も）での活動や集団作りについて
- ・咀嚼や発音について
- ・今回の内容より、具体性のある研修
(各園・事業所の事例・失敗例からどう対処したか)
- ・運動遊び、感覚遊びについて各施設で具体的にどのようなことをしているかもっと知りたい。
- ・集団で楽しみながら運動ができるような遊び

- 異年齢保育の集団の作り方
- 子どもの主体性を大切にしたクラス（集団）の在り方。
- 切り替えが難しい子の対応。
- 集団になかなか入ることができないこどもへの対応
- ことばの数が少ない子への声掛け
- 相性が合わないこども同士の過ごす場所。同じ空間にすることができない。